

【一】 次の文章を読み後の問いに答えなさい。

私が専門としている精神医学では、いま多くの人が「自己愛の傷つき」という問題を抱えていると考えられています。「自己愛」というのはオーストリアの精神分析学者のジークムント・フロイトが一〇〇年以上前に発見したのですが、「自分で自分のことを大切に思う」という人間が生きていく上でAキホンの心の動きのひとつです。

A「最近では「自分で自分が大切」と思うばかりではなく、まわりの人やさらに多くの人に「もっと私のことを大切に思ってもらいたい」とBヨウキユウする「自己愛の強い人」が増えていきます。

「もっとも」と私に注目してほしい、世界中の人にほめてもらいたい」と願っても、それがかなうわけはありません。そのときにすべきことは、「そうか、世界中の人に愛されたい、なんて無理な話だ。私の考えは間違っていた」と自分の「強すぎる自己愛」を修正することなのですが、²それもできない人が増えていきます。そうやって勝手に「どうして私はもっと多くの人から大切にされないの？ おかしいだろう」といつも自己愛が傷ついた状態になっていることを、フロイトは「自己愛の傷つき」と呼びました。

その「自己愛の傷つき」の状態にある人たちは、「私はいつもバカにされている」「私には才能があるのに、まわりが理解してくれないからすべてが台なしになった」「自分の価値がC極端に低くされている」と思っています。

では、その人たちは「ダメだ、誰もわかってくれない」と思い、落ち込むのでしょうか。その後、オーストリアのハインツ・コフートという精神分析学者は、「自己愛の傷つき」が起きたとき、人は「コントロール不能で予想外の怒り」を示すものだ、と述べました。コフートは言っています。

「怒りはいろいろな形で起きるが、大切なのは常に『復讐』^{ふしゅう}という性質がともなうということだ」。

C「その「怒り」は、それを向けられる相手にとっては「まったく理屈にかなっていない不当なもの」である場合がほとんどだ、とも言っています。つまり、自分は何も悪いことをしていないのに、突然、「自己愛の傷つき」を抱えている人から「怒り」のターゲットに選ばれ、「おかしいだろう！ 自分だけズルいことをして！ 復讐してやる！」と攻撃^{こうげき}されるわけです。

とくにいまの社会は、誰もが「強い自己愛」を持って生きてよい、そう生きるべき、というメッセージがあふれています。ただ「自分を大切に」というのではなく、「どんな夢でもきつとかなう」「あなたはかけがえのないすばらしい存在」「前向きに考えれば望みは絶対にかなう」「あなたが生まれたという奇跡」。

もちろん、そのひとつひとつは間違っていないのですが、そう言われ続けていると、中には「私は本当はすごい人間なんじゃないか？ 選ばれた人かもしれない」と思い込む人も出てくるのではないのでしょうか。そして、そう思っているのになかなか夢もかなわず、世界中から「すばらしい」とほめられたいしないと、「世界一の特別な何かにならなければ生きていく意味がないのだ」「夢もかなえていないのだから生まれた意味がない」と思い込み、さらに「私はもっとも」と注目されて当然の人間なのに「学校や会社での私への評価は低すぎるのではないか」といった不満を抱いたり、「人生こんなはずじやなかった」「なぜ私ではなくあんなつまらない人間がすばらしい賞を受賞するのか」「私は社長になっ

てあたりまえの選ばれた人間なのに」と疑問やイライラ、さらには怒りを抱くようになります。

D「現代の社会で生きている人の多くが、フロイトの言う「自己愛の傷つき」の状態にあり、³コフートの言うような激しい「怒り」を抱き、それを誰かにぶつけてやろうと相手を探しながら生きている、ということです。

それが、ここまで話してきた「⁴加害者がし」の大きな原因です。「どうして特別な選ばれた人間であるはずの私がこんなひどい扱いをされなくてはならないのか？」と思い、それから「そうか、誰かがズルい方法でD得をしたり、私が手にするべきお金や注目をひとりじめしているのだ」と社会の中に加害者をさがそうとする。そして、学校ではひとりの人をいじめの対象とし、社会では、水俣病^{みなまとい}のような病気を持った人、病のためなどで仕事ができず生活保護を受けている人、在日韓国人、朝鮮人や日本に住む外国人などを選んで「この人たちこそ加害者だ」とひどい差別やいやがらせをするのでしょうか。

差別やいじめをする人に「そんなひどいことはやめなさい」と注意すると、必ずと言ってよいほど、「ひどい目にあっているのは私のほうだ」「ひどいのは向こう側なんだ、ズルいことをして得をしているのだ」という答えが返ってきますが、実はその相手はひどいことなど何もしていないし、不当に得などもしておらず、すべては差別やいじめの加害者が自分の中で作り上げたストーリーである、ということがこれでわかってもらえたのではないのでしょうか。

(香山リカ『いじめ』や「差別」をなくすためにできること』より)

問一 二重傍線部A「キホン」、B「ヨウキユウ」をそれぞれ漢字に直し、C「極端」、D「得」の読み方をそれぞれひらがなで記しなさい。

問二 空欄A「³」に入る語として適切なものを次の中からそれぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使ってはいけない)

A つまり イ もちろん ウ さらに エ しかし

問三 傍線部1「自己愛」とはどのような行為かを簡潔に説明した箇所を本文中から十四字で書き抜きなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問四 傍線部2「それ」の指す内容を本文中から十九字で書き抜きなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問五 次の一文を入れるのにふさわしい箇所をさがし、入れた場合の直後の五字で答えなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

(脱文) それが違うのです。

問六 傍線部3「コフートの言うような激しい『怒り』」について具体的に述べた箇所を十五字で書き抜きなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問七 傍線部4「加害者」について。

① 「加害者」の対義語を漢字三文字で答えなさい。

② 傍線箇所での「加害者」はどのような人たちのことを指しているか。ふさわしくないものを次の中から記号で答えなさい。

ア 日本に住む外国人

イ 病気などで生活保護を受けている人

ウ 「自己愛」が傷ついた人の怒りが向けられている人

エ 強く自己愛を傷つけられた人

オ 学校でいじめの対象となっている人

問八 本文中で述べられている「自己愛」から「いじめ」や「差別」に至る過程についての説明文として正しいものを次の中から記号で答えなさい。

ア 「自己愛」の強い人が、自分の「強すぎる自己愛」を修正することができないままに傷つき続け、それが激しい怒りとなって他人を攻撃するようになる。

イ 「自己愛」を持つことができない人が、「自己愛」を持つことを人から押し付けられ、納得がいかないままストレスをため込んだ結果、他人を攻撃するようになる。

ウ 「自己愛」が、誰でも持っている心の動きであると考えられない人たちが、自分の言動が他人の「自己愛」を傷つけることが理解できず、知らないうちに他人を攻撃するようになる。

エ 「自己愛」が傷つく経験がなかった人たちが、日常的に評価され続けてきた結果、自分より能力の低い他人の存在がまんできず攻撃するようになる。

オ 「自己愛」は社会の中では否定されなければならないものの、自分を守るためには何をしてもよいと誤解した人が他人を攻撃するようになる。

問九 本文中で筆者が述べている内容として正しいものを次の中から記号で答えなさい。

ア 「自分を大切に」というメッセージを「自分以外は大切ではない」という意味だと受け取ってしまった人たちが、差別やいじめをする人になっていった。

イ 今の社会では「強い自己愛」を持った生き方を強調するメッセージがあふれており、そのことが「自己の傷つき」に悩む人々を救ってきた。

ウ 「自己愛」の定義はオーストリアのコフートによって発見され、それをフロイトが発展させることによって広く知られるようになった。

エ 差別やいじめをする人は、相手のせいで自分がひどい目にあっていると信じているが、それは実態とは異なっている。

オ 「自己愛の傷つき」という観点から考えれば、差別やいじめをする人たちにもするだけの理由があり、差別されいじめられる相手にも問題はあ

二 次の文章を読み後の問いに答えなさい。

団地を出るまでに、Tシャツの背中汗で濡れてしまった。覚悟していた以上にペダルが重い。ハンドルもふらつく。自転車の二人乗りは生まれて初めてだった。父はいつもAヘイキな顔でアツシを後ろに乗せていたが、こんなに大変だとは①思ってもみなかった。

「しっかりつかまってるか？ 絶対に手、離すなよ」

振り向くとハンドルがふらついて転びそうになるので、前を向いたまま、大声を出すしかない。

アツシは「はい、ちゃんと持ってます」とうれしそうに答える。最初は「子ども同士の二人乗りってダメなんだよ、パトカーにつかまっちゃうんだよ、交通安全教室で言われたもん」と嫌がっていたのに、自転車走りだすと②楽しくなってきたようだ。

バスを乗り継いでも一時間以上かかるので、海までは行けない。そのかわり、海を見られる場所に連れて行くことにした。商工会館のB屋上からだと、街並みの先のほうに、海が見える——かもしれない。

「でも、わかんないぞ、見えないかもしれないぞ、それでもいいよな、Cモンク言うなよ」

出がけに一度、信号待ちのときにもう一度、③念を押した。自信はない。商工会館は山の中腹にあるので見晴らしはいいはずだが、海まで見えるかどうかは確かめたことがないし、だいいち屋上に上ったことだってないし、今日は曇り空で、少し霞んでもいて、アツシの目で海と空を見分けられるのか、③わからない。

信号が青になる。少年はハンドルを強く握り直し、ペダルを踏み込んで、言った。

「2もしも海が見えなくても泣いたりするなよ。泣いたら置いて帰るからな」

泣かないって、と笑うだろうと思っていたのに、アツシは「うん……」と低い声で言った。

「おっきな声で返事しろよ」

「……はい」

今度は、高いけれど細い声になった。泣きだしそうな声でもあった。少年はもうなんにも言わない。黙ってペダルをぐいぐいと踏み込み、サドルからお尻も浮かせて、自転車のスピードを上げていく。

アツシがメガネをかけるようになったのは、幼稚園に入る前だった。健康診断で視力が悪いことがわかり、病院で検査を受けて、メガネをつくった。ほんとうはその時点で手術も勧められていたのだと、あとになって——両親が手術を決断してから、聞いた。

ずっと③足手まといだった。少年が団地の友だちと遊ぶとき、アツシは「ぼくも、ぼくも」と仲間に入れてほしがった。でも、仲間に入ってもいつも「おみそ」扱いだった。歳が四つも下だし、すぐにけつまずいて転んでしまうし、ボールの転がる方向や距離がうまくつかめないの、サッカーやソフトボールの球拾いさえまともにできない。

そんなアツシを見るたびに、いらいらした。友だちがメガネをからかったり、目の悪さのせいでいじめたりしたことはなかったが、気をつかわれているのがわかるから、嫌だった。アツシと一緒にいると、なんだか自分まで「弱いほう」になってしまうようで、まだ遊びたがっているアツシを無理やり帰らせて、泣かせてしまったこともある。

かわいそうなことをした。④いまは思う。いまだから思う。もっとたくさん遊んでやればよかった。

キャッチボールの相手をせがまれたとき、どうせアツくんには無理だよ、とD断るのではなく、たとえボールを後ろにそらしてばかりでも付き合ってやればよかった。

手術が成功すれば、視力はだいぶ上がる。いまほど分厚いメガネをかけずにすむし、ものがゆがんで見えるのも治る。でも、もしも失敗してしまうと――父も母も、そのことはなにも話さない。だから、少年も訊けない。

「アツくん」前を向いたまま、声をかけた。「なんで海に行きたいんだよ」

「なんとなく……」

「だって、おまえ、海なんかべつに好きじゃないだろ」

「でも……わかんないけど、なんとなく……」

「明日入院するから？」

少年の声は、かすかに震えた。アツシの返事がなかったので、ハンドルを強く握りしめた。胸がつつかえて、どきどきする。胸の中には、まだ訊きたいことが残っている。

目の手術をするから？ 手術に失敗するかもしれないから？ もしも失敗したら目がどうなるのか、アツくん、知ってるの――？

道は上り坂になった。二人乗りで漕ぐのはもう無理だ。少年は胸をつつかえさせたまま、自転車から降りた。アツシも荷台から降りようとしたが、「いいよ、おまえは乗ってて」と振り向かずにつて、自転車を押していく。

「らくちん。牧場に行つたときみたい」

アツシは笑った。去年の夏、家族で高原の観光牧場に出かけ、曳き馬に乗った。両親に「勇気出してがんばれ」「怖くない怖くない」と励まされて一人で鞍にまたがったアツシは、白樺林の中を一周した。

最初は鞍についた取っ手を両手でしっかりと握りしめていたが、終わり頃には片手を離して、母のかまえるカメラに向かってVサインをつくった。「勇気出してがんばれ」「怖くない怖くない」と、両親は手術の前にも言うだろうか。手術に成功したら、アツシはまたVサインをつくるのだろうか……。

入院は二週間の予定だった。目の中にメスを入れるというのに、意外と短い。そんなに難しい手術ではないのかもしれない。でも、もしも、もしも……と考えると、5「もしも」の向こう側にあるものがどんどん近づいてくる気がする。怖い。だったらなにも考えなければいいのに、勝手に考えてしまう。両親にモンクを言いたい。6もつと早く手術を受けさせていれば、少年も幼すぎて「もしも」のことは考えずにすんでいたのに。

商工会館の建物が見えた。あと少し。少年は息を詰め、歯を食いしばって、自転車を押していく。汗が目には滲みる。拭き取りたくても、ハンドルを片手で支えるのは無理だ。目がチカチカして痛い。汗と涙がにじんだ目に映る風景は、揺れながらゆがんでいた。

(重松清『小学五年生』「おとうと」より)

問一 二重傍線部A「ヘイキ」、C「モンク」、をそれぞれ漢字に直し、B「屋上」、D「断る」の読み方をそれぞれひらがなで記しなさい。

問二 次の文章は、この作品で描かれている内容の説明文である。空欄ア、ウにふさわしい語を文中よりそれぞれ取り出して完成させなさい。

主人公の少年は、明日から入院する弟アツシをアに乗せ、イを見せるためにウの屋上をめざして走っている。

問三 点線部①～③について、主語となるものを次の中からそれぞれ記号で答えなさい。同じ記号を何度使用してもよい。

ア 少年 イ 父 ウ アツシ エ それ以外

問四 傍線部1「念を押した」とあるが、「念を押す」の意味として最も適切なものを次の中から記号で答えなさい。

ア 注意が行き届く。 イ 無理矢理納得させる。 ウ 積極的にすすめる。
エ 心残りがする。 オ 何度も確かめる。

問五 傍線部2「もしも海が見えなくても泣いたりするなよ。泣いたら置いて帰るからな」とあるが、この時の少年の心情説明として最も適切なものを次の中から記号で答えなさい。

ア これから行く先で本当に海が見えるか少年にも自信がないため、だめだった時アツシがつかりしないように覚悟させる気持ち。
イ 海まで一時間以上かかるのに、それでも海を見たいというアツシのわがままに付き合いきれず、願いをあきらめさせたい気持ち。

ウ すぐ泣いてしまうアツシにうんざりし、怒りが爆発しそうではあるが、なんとか冷静になろうとしている気持ち。
エ 自転車の二人乗りに気持ちが高まっていたアツシがはしやぎすぎてハンドルがふらついたので、おどかして静かにさせようとする気持ち。

オ これからがまんしなければならぬことがひかえているアツシに、この体験から強い心をもつて欲しいと願う気持ち。

問六 傍線部3「足手まとい」とあるが、「足手まとい」の様子をくわしく書いた一文として最も適切なものを文中より取り出し、初めと終わりの五字で取り出しなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問七 傍線部4「いまは思う。いまだから思う」とあるが、この「いま」とはどのような「いま」なのか。最も適切なものを次の中から記号で答えなさい。

ア アツシが泣き出しそうな声を出している「いま」
イ アツシとはもう二度と会えないことがわかった「いま」
ウ アツシの入院を明日にひかえた「いま」

エ 海まで行くことをなけばあきらめている「いま」

オ 自転車の二人乗りを楽しんでいる「いま」

問八 傍線部5『もしも』の向う側にあるもの」の具体的内容を考え、「手術」「目」の二語を用いて二十字〜三十字で書きなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問九 傍線部6「もっと早く」とあるが、具体的にはいつを指しているのか。「アツシが」に続くかたちで文中より七字で取り出しなさい。

問十 次の中から本文の内容説明としてふさわしいものはA、ふさわしくないものはBを書きなさい。ただし、すべて同じ記号で答えた場合は採点の対象としない。

ア 少年とともに海をめざして自転車を並べてこいでいるアツシは、兄に自分の弱気な様子を見せないように必死にふるまっている。

イ 海を見たいと願うアツシに対して、今までの自分の態度に反省と後悔の気持ちでいる少年は、なんとしてもアツシの願いをかなえてやりたいと思っている。

ウ 少年はアツシが友だちからメガネをからかわれているのを見るたびに、アツシがかわいそうに思え、兄として守ってあげる努力をしてきた。

エ 明るく楽天的なアツシだが、自分を心配しすぎる兄の言葉や行動をみているうちに、だんだん自分自身も不安になってきてしまった。

オ 少年は、アツシが不安や恐怖を両親のはげましによって乗り越えてきたことを考え、今回もがんばってほしいと祈るような気持ちでいる。

《以下 余白》

氏 名

総合得点

一	合計

1.
 2.
 3.
 4.
 5.
 6.
 7.
 8.
 9.
 10.
 11.
 12.
 13.
 14.
 15.
 16.
 17.
 18.
 19.
 20.
 21.
 22.
 23.
 24.
 25.
 26.
 27.
 28.
 29.
 30.
 31.
 32.
 33.
 34.
 35.
 36.
 37.
 38.
 39.
 40.
 41.
 42.
 43.
 44.
 45.
 46.
 47.
 48.
 49.
 50.
 51.
 52.
 53.
 54.
 55.
 56.
 57.
 58.
 59.
 60.
 61.
 62.
 63.
 64.
 65.
 66.
 67.
 68.
 69.
 70.
 71.
 72.
 73.
 74.
 75.
 76.
 77.
 78.
 79.
 80.
 81.
 82.
 83.
 84.
 85.
 86.
 87.
 88.
 89.
 90.
 91.
 92.
 93.
 94.
 95.
 96.
 97.
 98.
 99.
 100.

二	合計